

「大学評価担当者集会 2009」事後アンケートの結果

1. 概要

大学評価担当者集会 2009 終了後、参加者へアンケートへの回答をメールでお願いした。10月9日（金）を締め切りとし、17名（回収率 11.3%）から回答をいただいた。

2. 結果

質問項目は5つ設定し、すべて自由記述の形で回答していただいた。項目ごとに自由記述の内容を示すと以下の通りとなる。

（1）大学評価担当者集会の開催時期について

- ・ 開催時間は問題ありませんが、可能であれば火～木の間に開催願いたい。（金曜だと移動で土曜日がつぶれてしまうので。）
- ・ 大学は夏期休業中でもあり、参加しやすかった。
- ・ 夏季休業期間中の方が何かと動きが取りやすいと思われるので、今回設定いただいたように8月下旬から9月中旬までの間に開催いただけるとありがたく思います。
- ・ 大学評価担当者集会の開催時期は、今回の開催時期は適切な時期と思います。今後も8月下旬～9月上旬頃が望ましいと考えます。
- ・ これまで同様9月の開催を希望します。
- ・ 今回の開催時期は特に問題ありませんでした。基本的には、年度末や各種報告書の提出時期である6月付近を避けていただければ助かります。
- ・ 適切である。
- ・ 業務も一段落でしたので良い時期でした。
- ・ 適当な時期設定であると考えます。
- ・ 例年であれば、文部科学省「国立大学等法人評価委員会」よりの年度評価に関する原案が送付される時期であり、「意見申し立て」に対応すべき時期であるが、平成21年度は全体の日程が1ヶ月程遅れたために参加することができた。来年以降については9月の第1週の開催を目処にいただければ参加が可能と考える。
- ・ 学生が休業期間であるため、参加しやすい時期だったと思います。また、4月の異動で初めて来た職員も半年の経験を積み、これからの半年間に活かすことができるので 適当な時期だと思います。
- ・ 大学が夏季休業期間中だったということもあり、業務が比較的落ち着いている時期だったため、より参加しやすかったです。
- ・ 現在の開催時期で、特に不都合はありません。
- ・ 適切であると考えています。
- ・ 適切であったと考える。

(2) ポスターセッションについて

- ・ いい企画であったが、参加機関が少なかった。
- ・ 会場が狭く、みずらく感じた。担当者の説明もよく聞こえなかった。
- ・ 特段の意見はありませんが、資料が不足し1 2時半頃に来られた方の分がなかったのでは。
- ・ ポスターセッションの実施方法について、今回の大学評価担当者集会の会場でありました「西新プラザ」の物理的なスペースの問題もあるかと思いますが、可能であれば、ポスターセッションへ参加している大学等ごとにブースを設け、着席式で落ち着いて話ができるようにしていただくと、他大学の評価に対する取組方法などの話をしっかりと行うことができ、自分の大学に活かすことができるような良い話を聞ける可能性もあるのではないかと感じました。
- ・ 大変に良い企画だったと思いました。色々な分野に及んでいましたので参考になりました。参加者が多かったので、ポスターの掲示板の設置間隔が狭いところもあってゆっくりと見づらかったところもありました。(それだけ盛況であったということにもなりますが)
- ・ 普段あまり聞く機会のない学生さんの意見や他大学の評価システム・手法などの情報が収集できて、大変有意義でした。
- ・ 有効な情報を得ることもあったが、一方、話を伺わないと全くわからないものがあった。コミュニケーションすることがポスターセッションの意義のひとつであることは理解しているが、難しさを感じる。また、今回、ポスターセッションの時間帯の参加者（見て回る側）が少なかった感は否めないため、検討を要するのではないのでしょうか。
- ・ テーマも自由で良かったと思います。担当の方がいない所があり、説明を聞けない時がありました。
- ・ 他大学の取組内容が参考になる内容であった。多岐にわたる内容で興味深かったが、テーマが分散しており、事前テーマの設定も一定必要であったかと考える。また、国立大学法人等からの発表が大半であったことから、仮に今後実施される場合、私立大学、公立大学からの取組の発表を期待したい。
- ・ 各ポスターセッションについて、各大学でのご苦勞がうかがえ大変参考にさせていただいた。ただ、参加される側の準備等負担は小さくは無いと思える。準備期間が法人評価委員会のヒアリング準備と重複するため継続してセッションに参加することは難しいのではないか。特に事務職員については評価作業に追われ余裕が無いように思える。
- ・ ポスターセッションについては、遠くから眺めた程度で、積極的に参加しなかったため意見等を申し上げることはできません。申し訳ございません。
- ・ 各大学だけでなく、九州大学 21 世紀プログラムの学生のポスターセッションもあり、大変参考になりました。
- ・ いずれのセッションについても、興味深く拝見させていただいた。時間の関係上、一部の大学について話を聞くことが出来なかったのが残念。各大学や機関で、評価に当たって取り組んでいる工夫や苦勞を直に聞くことが出来る良い機会となった。
- ・ 初の試みであり、興味深く参加しました。
- ・ 初の試みで興味深かった。

(3) 事例報告について

- ・ 一般論に終始し、具体性に欠けた報告がいくつかあり、あまり参考にならなかった。テーマに沿った報告をしていただけるよう、運営側で事前に内容の精査・助言をしていただいたほうがよかったのではないかと。
- ・ 報告事例が国公立に機構と4種類に分かれていたので、広く状況を把握することができて良かったです。ただ、質疑応答の時間がほとんど取れないなど、ちょっと時間が窮屈なように思いました。
- ・ 例年、他大学の事例報告を行っていただいておりますが、今年度は、国公立大学及び大学評価・学位授与機構からの報告（説明？）もあり、大変バランスのよいものだったと思います。ただし、例年、事例報告を行っている大学の説明は当該大学の評価体制などの話が中心のように感じておりました。正直なところ、評価体制は各大学の人的資源などの差異もあるため、あまり参考になる情報とは思っておらず、できることであれば、今年度は事前アンケートをとっておられましたが、その中で評価に対する特徴的な取組やこの取組であれば様々な大学にもひとつの手法として取り入れることが可能な事例を持っている大学から、その点に関する詳細な説明を行っていただきたいかったというのが本音です。
- ・ 大学評価・学位授与機構の林先生の報告について、1点申し上げます。機構の正式な意志としてアンケート結果をどのように捉えられているのかは、どこの大学でも知りたいところではないかと思っております。むしろ、多くの大学があアンケートに時間を掛けて回答しているのだから、正式な分析の公表はアカウンタビリティの観点から不可欠です。資料の最初に「個人的見解」という無責任な言葉が書かれていることに対し、失望と落胆が隠せません。
- ・ 設置形態（国・公・私立）の異なる大学の事例を拝見することができて大変参考になりました。
- ・ 他大学での具体的な作業内容・体制が確認できて、大変有意義でした。また、評価機関が目指している方向性も確認することができ、お互いの意識共有という観点からも、大変勉強になりました。
- ・ 前半2題は、今回の集会テーマと合致しきっていないと思われた。後半2題は、有効な情報が含まれていた。設置者が異なると観点や集会参加の目的が異なるため、いたしがたない面もあるため、今後の選定に際してのひとつの課題と感じた。
- ・ 各報告は時間が足りないようでした。報告件数を少なくして、内容を濃くしてはどうでしょうか。
- ・ 各大学の事例報告では、国公立大学は、自己点検・評価と認証評価、中期目標・中期計画や法人評価を、また、私立大学は自己点検・評価と認証評価、将来構想をどのように連動させるかを軸にした報告があったが、何れも取組自体は着手されたばかりであり、実質的に機能している様子は窺い知れなかった。
- ・ 今回、4件の事例報告をいただいたが盛りだくさんな内容のために質問等の時間的な余裕が不足していたように思う。2件程度に絞り各大学から意見を求める事で議論が活発になるのではないかと。聞くだけではもったいないと思う。意見についても運営側から参加大学に名前をあげて質問を投げても良いと思う。
- ・ 国公立、評価機関の報告があり、それぞれの工夫を見ることができ、参考になりました。

総合大学が多かったため、単科大学の例があってもよかったかもしれません。

- ・ 特に大阪府立大学の事例報告は、同じ公立大学法人として参考になりました。
- ・ 発表者が国立、公立、私立大学及び評価機関から満遍なく選ばれており、それぞれの立場における、「評価のための評価」とならないための工夫や反省点などの取組について聞くことができ、勉強となった。
- ・ 各大学の現状が理解でき、有意義でした。
- ・ 興味深かったが、質疑応答がほとんどできなかったのは不満である。

(4) ワークショップについて

- ・ グループの割り振りを設置者別、職種別にしていただきたい。また、4人だとやや少なすぎる。6人程度がいいのではないか。
- ・ 評価に関する他大学との情報交換を行うことができ、自分の大学で困っていることや悩んでいることなどが他大学でも同様に起きているということが確認できたことはひとつの収穫であったと思いますが、今後は、今回、九州大学さんから御提案がありました「大学評価コンソーシアム」という組織を活用して、評価作業の簡素化・効率化について、より掘り下げて検討を行い、その検討結果を何らかのかたちで評価機関に対して求めていくということが必要なのではないかと感じました。話が少し逸れましたが、今回のワークショップという手法は、大学評価担当者集会においては、初めての試みだったと思いますが、他大学の状況を知ることができたこと、他大学の評価担当者との人脈がわずかとはいえできたことなどを行うことができ、非常に良かったのではないかと思います。
- ・ 人数的にちょうど良く、教員と事務が入り交じったことから、有意義と感じました。もう少し（あと15分くらい）時間があれば、もっと良かったのではないのでしょうか。
- ・ ワークショップの方法・進捗が初めての経験で楽しく参加することができました。グループの人数については、他機関の人との人的ネットワークの構築等を考えると、もう少し多数でも良かったように思いました。
- ・ ワークショップは初めての経験でしたが、発想の転換、情報収集及び主体性等の向上という点で大変勉強になりました。
- ・ 大学評価には10年ほど前からかかわってきましたが、出てきた論点は、すでにどこでも語られており、問題として明らかになっていることです。「何が問題か」ではなく、「どのように問題を解決するのか」が問われているのであり、設営は大変でしょうが、この種の会議は新たな価値を生み出すことが重要であって、その意義はなかったと思います。また、この種の集会にはよく参加しますが、アイス・ブレイクの時間と手順に時間をかけすぎです。大人の集団ですから、あそこまでやらなくとも十分に本音の議論はできるはずです。仲良しになるのが目的でしょうか。どのような認識の深みに達するかが重要なはずで、これでは評価の仕組みに振り回されるだけです。
- ・ 今回の140名近い参加者同士が語り合う機会・手法としては、非常に有効であると感じた。改めてご尽力に感謝申し上げます。
- ・ 初めての経験でしたが、皆さんとのコミュニケーションがとれて良かったと思います。次回もテーマを変えて同様に行ってはどうでしょうか。
- ・ 中心テーマ「評価を評価で終わらせないために」に基づき、個人ワークおよびグループワ

ークを通じて、会場全体でマインドマップの作成を行うという内容で構成されていたことから、全体を通じて多くの人との意見交換に基づき、大学評価に関する課題を制度的水準において把握できたと考える。国立大学および公立大学の担当者からは、法人評価や中期目標・計画策定への対応も含めた評価業務の増加に伴い、評価担当者への大きな負荷が生じているとの課題が示されたり、評価結果を改善に繋げていく上で、執行部が統率力を発揮することが重要であるとの意見があった。また、個人的にも、大学評価のあり方と日常の業務との関係を省察する機会となった。なお、マインドマップの作成は大変意欲的な試みであったが、残念ながら時間的余裕がなかったことから、議論の論点、項目間の階層性や順次性の整理が必ずしも十分にできなかった。今後の取組を期待したい。

- ・ たいへんおもしろい企画であったと思う。各大学の実情がうかがえ、今後の評価作業など互いに連絡を取り合う事ができる。集会終了後、ワークショップ参加者とメール等のやりとりを行っている。
- ・ ワークショップの手法がとても興味深かったです。同じチームになった方が、たまたま同じ立場（国公立、単科大学）でそれぞれが工夫したり、苦労している点について、意見交換をすることができ、これからの業務に役立てそうです。交替で来られた方や、最後のマップ作りで出された意見も、立場が違うとはいえ、参考になるものが多かったです。ありがとうございました。
- ・ ユニークな自己紹介方法など、初めてワークショップを体験する人にも分かりやすい内容だったため、初対面の方とも打ち解けた状態で評価について意見交換することができました。私のいたグループは国立大学教員及び職員、市立大学教員、公立大学職員というメンバーだったため普段ならば聞くことのできない現場の声を聞くことができました。評価において指摘されなかったことが「良かった」で終わるという意見が共通しており、解決には至らなかったが、課題を共有することができて有意義な時間を過ごすことができました。
- ・ **WORLD CAFE** 方式による議論を通じて、色々な人やグループの意見を取り入れながら考えを練り上げていくという作業は有意義であった。来年度以降の集会においても、メインの取組として引き続き実施していただきたい。
- ・ ワークショップの手法そのものも興味深く、良いものであったと思います。しかし、内容としては建設的な議論が少なく愚痴や現状報告に終始しがちで、結果的に、会場全体としての結論が出ずにキーワードの整理で終わってしまったことは残念でありました。テーマの設定自体は適切であったと考えます。ただし、色んな話が出てきて様々な気づきがあった一方で、実際に議論できる時間が限られ、結果として議論が収斂されずテーマに沿った結論が出なかったということを考えれば、設定したテーマのスケールがやや大きかったということで、もう少しテーマを絞っても良かったかもしれないと感じました。
- ・ 手法は興味深かった。テーマ設定も適切であり、様々な議論ができたが、結論がキーワードの整理で終わったことは残念である。結果論ではあるが、議論のために確保された時間の割には、テーマ設定の範囲がやや広がったのかなと感じた。

(5) 今後の大学評価担当者集会について

- ・ 評価担当者が直面する課題・テーマ別に情報交換・意見交換ができるセッションがあるとよい。
- ・ 本学のように小規模公立大学では、評価担当がたった一人ということも珍しくありません。また、公立大学の大学人事は県庁・府庁の人事異動の中で行われることから、数年で異動するとともに、後任者は大学はまったく初めてということもあり、国立大学・私立大学と比べて、評価体制という面では著しく不利な状況にあります。こうした状況の中で、今回のような集会を主催いただけるのは、他大学の状況も知ることができ非常に有意義なことと思っております。あえて要望を申し上げますと、今回のように100名を大きく超える方の参加があるのであれば、全体会の後、国公私の各学校種別、あるいは評価種別（法人評価、認証評価、教職委員評価など）で分科会形式で行うというのはどうでしょうか。「大学評価」の範囲は非常に広く、（失礼ですが）今回の集会も少し焦点が絞られていないように感じた面もありましたので。
- ・ 上記の「03」の質問項目にも記載いたしました、大学評価担当者集会の開催前に行われたアンケートを踏まえ、他大学の評価に対する取組（個人的に特に興味があるのは大学としての組織情報の効率的な収集方法、評価作業の簡素化・効率化を図っている大学の手法など）について詳細な報告を行う機会を設けていただきたいと思います。
- ・ 認証評価と法人評価とでは性格が異なりますので、認証評価と法人評価で分科会を設け情報交換の機会もあっていいように思いました。
- ・ 今後は、実際の評価作業に当たって注意すべき点など、評価作業の手法やマネジメント等のスキルアップが図れるプログラム（講師の招聘等）があると良いかもしれません（もちろん、予算の問題がありますので講師の招聘は厳しいかと思いますが・・・）。
- ・ 参加した評価担当者は若い方が多く、こうした人たちの訓練や知識がないために交流を求めていることはわかりますが、大学の現場や実態、業務について通曉していないのに、評価専担組織を作り、そこにいきなり人を採用して、評価機関の文書をもとに評価書を作成しても、それが改善に役立つことはあり得ません。大学がそうしたことを期待しているとは到底考えられません。新潟大学の若い方が自信たっぷりに報告されていましたが、評価による改善とはいうなれば医療の診断と治療です。生理・病理や症状の知識もなく、患者を診たこともなく、不十分な知識と訓練しかないのに、評価が改善に生かされないと嘆くというスタンス自体、考え直すべきです。少なくとも評価に携わる人は、職員であるなら、3つの系列でそれぞれ3年程度の経験を積んだ人が、評価に関する知識や訓練を受けて従事すべきです。はじめから評価者などいないのです。評価組織に初職として採用された人の訓練をどうするのか、評価組織をどう構成すべきか、そこも含めて地についた議論を期待します。
- ・ 分科会（テーマは異なる）で議論のあと、報告をしていただく方式はいかがでしょうか。集会が交流の場となることが重要と思えます。テーマは、認証評価の第2サイクルに向けて、分野別評価の在り方、国立大学法人限定となりますが、第1期法人評価（確定評価）を終えてなにを学んだか。以上、とりとめのないアイデアで申し訳ございません。
- ・ 今年度の内容は、ポスターセッション、事例報告、ワークショップという構成で企画されており、参加者間の双方向性が確保されていたことから、今後もこの方向性を継続すると

ともに、事例の「報告」のみに留まらない事例研究や、複数大学の共同企画等も試みてはどうかと考える。また、各評価の前提としての「自己点検・評価」について、もう少し深く掘り下げて捉えるようなテーマ設定や、また、日本学術会議が検討している、教育課程編成上の分野別参照基準も、各大学自身の自律的改善を促すため仕組みの一つとして、「専門分野別」評価のあり方も含めて、とり上げて良いかと愚考する。

- ・ この度の内容は、教職員がそれぞれの立場で意見を交わすことができ、良かったと思います。ワークショップの手法も具体的で、皆が同じ目的に向かって作業を進めることができ、とても良かったと思います。評価制度の確立が行われるまでは、このような形での意見交換を通じて、方策を見出すのは、とても効果的な内容だと考えています。
- ・ 今回のようなワークショップを、テーマを変えて行うと良いと思います。
- ・ 今回実施したワークショップのように、各参加者が主体的に意見を発信し、情報を交換できるプログラムを充実させていただきたい。
- ・ 基本形は、現状のままで良いと思います。ただし、ポスターセッションのスキルを持たない事務職員の参加が今後更に多くなれば、ポスターセッションがどうなるのか気にはなります。
- ・ 基本形はこのままで良いのではないかと。この取組はずっと続けて欲しい。教員職員の職種の違い、国公立という設置形態の違いを超えて集まるという取組は全国的にも珍しく、教員と職員で役割分担の垣根が低いという評価業務の特徴を象徴している。その割には、お膝元の九大企画課職員の存在感が感じられない。各大学からは企画・評価担当事務職員が多数来ているというのに。総論としての教職協働は以前からずっと提起されているが、各論として具体的な役割分担の在り方はあまり議論されていない。教員・職員当事者同士が議論しろというのが厳しいからか。評価疲れが顕在化して久しいが、では、評価に疲れている教員は、事務職員が何をサポートすれば楽になるのか、評価制度・業務から逃げられない中、本業の教育研究に専念するために事務職員に期待することは何か。評価疲れを主張する教員から意見を聞いてみたい。評価業務を担当する大学職員は、大学改革・活性化に大きな関心を寄せている。この集会が、評価を通じて教職協働で大学改革・活性化を進める取組の象徴・代表的なものに発展できることを願っている。

(6) 大学評価コンソーシアムの方向性について

- ・ 全国展開ができるのであれば、地域ごとの支部を結成し、集会参加等の移動に要する経費と時間の削減を目指していただければありがたい。例えば1か所（九州大学等）に集まるのは各支部の代表校のみとし、そこで得た情報・報告等を持ち帰り、各支部ごとに担当者集会を開催するなど。
- ・ 法人評価や認証評価などへの対応として、組織的情報の効率的な情報収集方法、評価作業の簡素化・効率化の方法などの情報を共有するとともに、「大学評価コンソーシアム」という組織を活用して、評価機関などに評価作業の簡素化・効率化等を求める活動を行っていただきたいと思います。
- ・ 現状では、具体的なイメージがありません。
- ・ 参加者の規模によるが、現在ご提示いただいている方向性で当分の間は動かしていくのが良いと考える。地域的に複数のメンバーがいる場合は、自主的な勉強会として、地域部会

を実施するというのも有効な手段である。が、この場合、世話人がいないと難しいのが現実である。

- ・ 今後の方向性について、自主的、恒常的な大学間の連携を通じて大学評価のあり方を考えるという点で、当該コンソーシアムの趣旨に親和的である大学関係団体等との交流を通じて、今後の評価制度のあり方、評価システムを継続的に支えていく体制や、評価に携わる人材の育成等に関して、協力や意見交換を行っていくことが重要である。活動については、既に九州大学で取り組まれているような大学マネジメント・セミナーを大学間連携に基づく共同プロジェクトのようなかたちで実施することが考えられる。また、実際の大学評価担当者の方に限定されず、今後、高等教育機関のアカウンタビリティやア Kredィション、アセスメント等を結び付ける上で重要な役割を果たすと見込まれる「学生担当部門」職員を対象とした評価人材の育成、緩やかな部門別の職員を対象とした人材育成プログラム等の開発について検討が必要であると考えます。
- ・ この度の会議のように、意見交換や苦労話を中心にざっくばらんに行えばよいと思います。
- ・ 集会の時にもお話をいただいたように、最初は情報交換等のつながりから初めていけば良いと思う。今後、各大学で評価の実績を積み重ね、情報等を充実させていくことにより、コンソーシアムとしての意見発信も可能となるのではないかと考える。
- ・ 大学評価コンソーシアムの発案自体は良いことだと思いますが、会場からの発言もありましたが、コンソーシアム参加に組織としてどう対応するか、という問題には苦慮します。常設・継続的な情報交換組織、勉強会（研究会だと敷居が高い）などといった位置づけであれば、事務職員であっても個人レベルで参加しやすかったのですが。ただ、これらは現実として、評価業務は教員と職員の業務分担の垣根が低い（大学によって、評価センター、評価室等の評価組織の有無やその形態の違いにより、業務の棲み分け方が全く異なる）という一種の特性が一因でしょうし、暫くは現状のままでやっていくしかないように思われます。
- ・ 大学コンソーシアム形式であれば、会場から発言があったように、所属大学の組織的な観点を考えると、事務職員個人ではなかなか参加しにくい。事務職員としては、常設・継続的な勉強会、情報交換組織の形態（学会組織に近い？）のほうが参加しやすかった。

（7）その他

- ・ 開催地が九州であったことで、東日本地区の大学が少なかったのは、残念だった。
- ・ 今後の発展に期待しております。
- ・ 今回初めて参加させていただきましたが、個人的には非常に勉強させていただくことができました。ありがとうございました。
- ・ 毎年、九州大学（大学評価情報室）の方々におかれましては、大変な御尽力をいただき、「大学評価担当者集会」という評価担当者が集まり、評価に関する意見交換等を行う場を設けていただき、大変感謝しております。この場をお借りして御礼を申し上げます。現在、評価関係業務に携わっている者としては、大学評価・学位授与機構などが主催する評価関係のセミナーなどよりも、九州大学さんが企画されている今回のような集会が非常に重要と考えております。今後も、九州大学の方々には御迷惑をおかけするとともに、お世話になることが多々あるかと思っておりますが、今後ともどうぞよろ

しくお願い申し上げます。「大学評価担当者集会」及び「大学評価コンソーシアム」が、今後、各大学の評価担当者にとって、非常に重要な役割を担うものになっていくことを祈念いたします。この度は、いろいろとお世話になりまして、大変ありがとうございました。

- ・ 規模の大きさになりますが、九大様のご負担が大きくなった場合や経費的な側面の問題がでてきた際にどう動かしていくかが今後の課題と思われれます。
- ・ 初めて参加しましたが、楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 事務職員です。大学における様々な業務のうち、教員と職員が、更に国公立の垣根を越えて一堂に会して1つの問題・テーマに取り組むというのは、全国的にも珍しい取組であると思われるし、だからこそ、他の研修会等に比べれば刺激的であるので、是非この取組は続けて欲しいです。別の箇所で書きましたが、評価業務は教員と職員の業務分担の垣根が低く、また国公立共通の問題を抱えるからこそ、このような会合が実現できると思います。このような会合が評価のほかにできるのは学生指導分野くらいのものでしょうか。そのような中、今回は事務職員の参加者が比較的多かったように思いますが、教員側の評価疲れが現実問題として顕在化する中、事務職員の出番はもっとあるはずと考えています。教職協働は大切である、とはずっと以前から提起されていますが、これからは一歩進んで、各大学の現状も踏まえながら、最適な役割分担の姿がどうあるべきかの議論もなされてしかるべきではないかと考えています。ただ現実として、当事者同士が介する集会の場でこの問題を話し合えとなると、色々と厳しいとは思いますが。ただ、私は評価疲れを声高に叫ぶ教員に対して、では事務職員が何をサポートすれば楽になりますか？本来の業務である教育研究に専念するべく事務職員に求めたいことは何ですか？という問いには是非答えて欲しいと思っています。私はそのような視点も持ちつつ参加しています。そして、九大企画課の方もいらっしゃいますが、もっと議論の場など表に出て来られて良いのではないのでしょうか？評価を担当する事務職員は、総じて大学改革・活性化に大きな関心を持っています。この集会が、評価を通して教職協働で大学改革・活性化に貢献していく代表的象徴的な取組に発展していくことを願っております。

あります。

つきましては、分科会の実施担当者の方におかれましては、分科会の趣旨を 200 字程度で説明した案内文を、平成 23 年 6 月 13 日（月）までに、事務局までご提出ください。

また、全体の運営を調整する必要がありますので、分科会の趣旨、実施内容、使用機材に関する企画書を平成 23 年 7 月 1 日（金）までにご提出ください。

(2) プレイベントの実施担当者へのお願い

プレイベントの具体的な内容は、実施担当者の方々にお任せいたしますので、上記の日時等を踏まえて、開催の準備を進めてくださいますようお願いいたします。

今後の当面の作業として、6 月初旬には、大学評価担当者集会の広報を開始する必要があります。

つきましては、プレイベントの実施担当者の方におかれましては、プレイベントの趣旨を 200 字程度で説明した案内文を、平成 23 年 6 月 13 日（月）までに、事務局までご提出ください。

また、プレイベントの趣旨、実施内容、使用機材に関する企画書を平成 23 年 7 月 1 日（金）までにご提出ください。

(3) 上記 (1) (2) の実施担当者以外の幹事の方へのお願い

畠田幹事・浅野幹事・佐藤幹事のご提案を基軸にプログラムを作成したため、現時点では、集会、プレイベントの実施担当者に名前を掲載できていない幹事の方もおられます。

ただ、できるだけ多くの幹事の方々に分科会を担当していただくことが今後の活動の継続につながると思われます。

つきましては、現時点で名前を掲載できていない幹事の方は、担当を希望する分科会を平成 23 年 6 月 13 日（月）までに事務局までご連絡ください。以後、分科会の実施担当者と調整をさせていただきます。

実施担当者の方々におかれましては、大変お忙しいところお手数をおかけして恐縮ですが、円滑な運営のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

以上